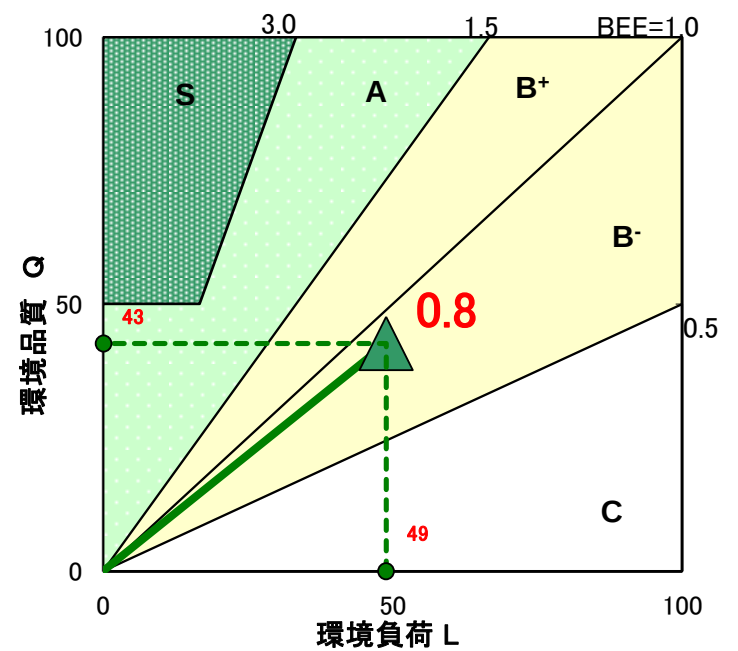


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	ノーブル九学通り新築工事	階数	地上12F		
建設地	熊本市中央区大江4丁目20-11外6筆	構造	RC造		
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員	83 人		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	4,500 時間/年		
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2013年11月3日		
敷地面積	864 m ²	作成者	伊東正太郎		
建築面積	240 m ²	確認日	2013年11月5日		
延床面積	2,059 m ²	確認者	吉永拓郎		

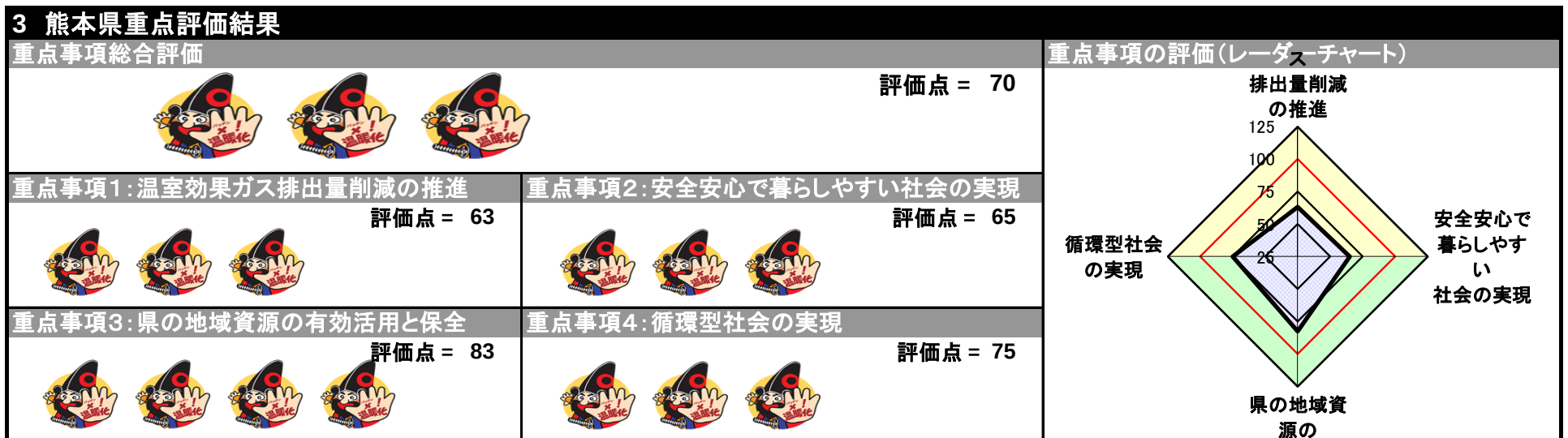
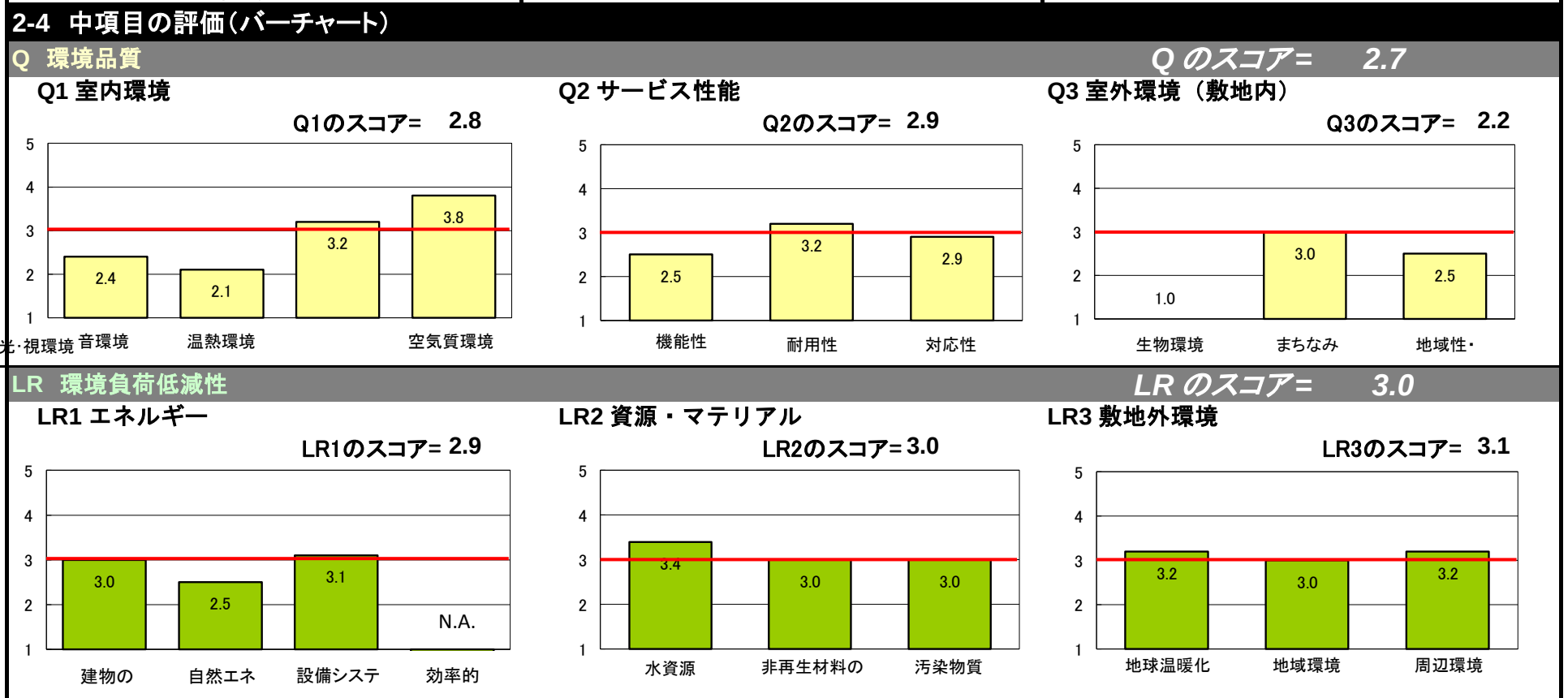
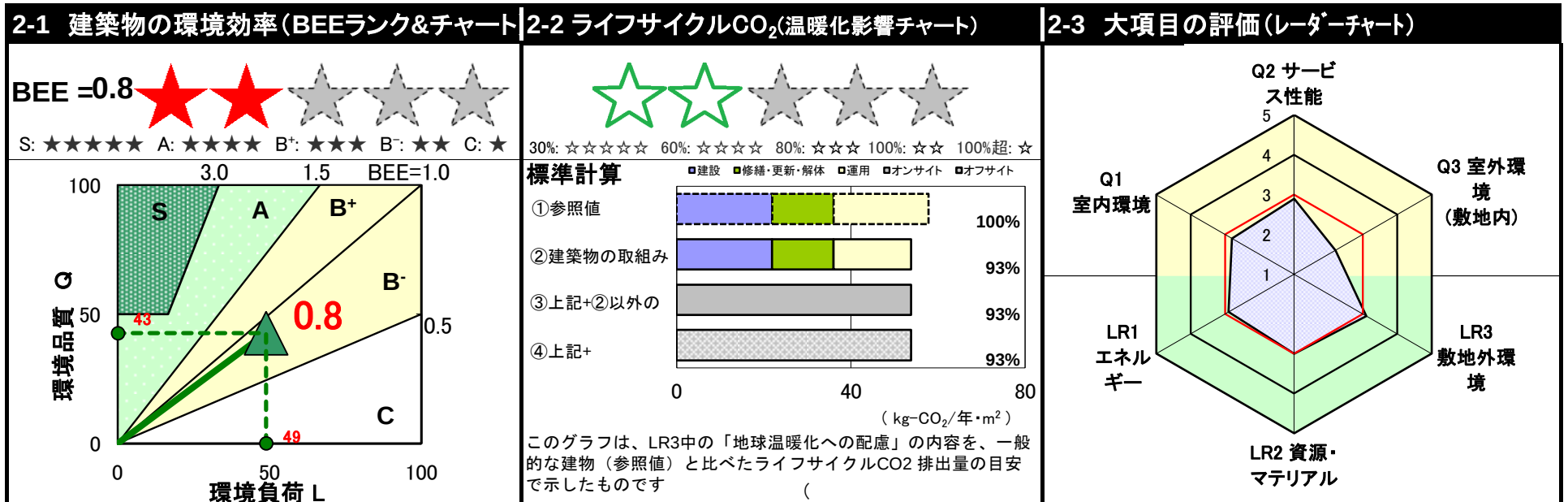
1 CASBEE評価結果																																				
■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)																																				
			BEE = 0.8 ■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$																																	
			■ 環境効率評価基準 <table><tr><th rowspan="2">ランク</th><th rowspan="2">ランク表示</th><th rowspan="2">評価</th><th colspan="2">判定値</th></tr><tr><th>BEE値</th><th>Q値</th></tr><tr><td>S</td><td>★★★★★</td><td>素晴らしい</td><td>3.0以上</td><td>50以上</td></tr><tr><td>A</td><td>★★★★★</td><td>大変良い</td><td>1.5以上3.0未満</td><td>—</td></tr><tr><td>B⁺</td><td>★★★★</td><td>良い</td><td>1.0以上1.5未満</td><td>—</td></tr><tr><td>B⁻</td><td>★★★</td><td>やや劣る</td><td>0.5以上1.0未満</td><td>—</td></tr><tr><td>C</td><td>★</td><td>劣る</td><td>0.5未満</td><td>—</td></tr></table>		ランク	ランク表示	評価	判定値		BEE値	Q値	S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上	A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—	B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—	B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—	C	★	劣る	0.5未満	—
ランク	ランク表示	評価	判定値																																	
			BEE値	Q値																																
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上																																
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—																																
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—																																
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—																																
C	★	劣る	0.5未満	—																																
■ ライフサイクルCO ₂ 排出性能 (ランク表示)																																				
			排出率 93%																																	
			■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準 <table><tr><th>判定値 (排出率)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>30%以下</td><td>☆☆☆☆☆</td></tr><tr><td>30%超60%以下</td><td>☆☆☆☆</td></tr><tr><td>60%超80%以下</td><td>☆☆☆</td></tr><tr><td>80%超100%以下</td><td>☆☆</td></tr><tr><td>100%超</td><td>☆</td></tr></table>		判定値 (排出率)	ランク表示	30%以下	☆☆☆☆☆	30%超60%以下	☆☆☆☆	60%超80%以下	☆☆☆	80%超100%以下	☆☆	100%超	☆																				
判定値 (排出率)	ランク表示																																			
30%以下	☆☆☆☆☆																																			
30%超60%以下	☆☆☆☆																																			
60%超80%以下	☆☆☆																																			
80%超100%以下	☆☆																																			
100%超	☆																																			

2 熊本県重点評価結果				
■ 重点事項総合評価				評価点
				70
		評価点	■ 熊本県重点評価基準	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進		63.2	判定値 (評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現		65.0	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全		82.5	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現		75.0	60点以上80点未満	
			40点以上60点未満	
			40点未満	
※評価点は、100点以上が推奨です。				

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	ノーブル九学通り新築工事	階数		
建設地	熊本市中央区大江4丁目20-11外6号	構造		
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間		
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日		
敷地面積	864 m ²	作成者		
建築面積	240 m ²	確認日	2013年11月5日	
延床面積	2,059 m ²	確認者		
			吉永拓郎	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
ノーブル九学通り新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築（簡易版）2010年版
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
				評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質									2.7		
Q1 室内環境					0.40				2.8		
1 音環境				2.0	0.15	2.5	1.00		2.4		
1.1 騒音		50dB(A)ホール、35dB(A)居室		3.0	0.50	3.5	0.50				
1	室内騒音レベル			3.0	1.00	4.0	0.50				
2	設備騒音対策				-	3.0	0.50				
1.2 遮音		住居部：T-1程度		1.0	0.50	1.6	0.50				
1	開口部遮音性能			1.0	1.00	3.0	0.30				
2	界壁遮音性能			-	-	1.0	0.30				
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	1.0	0.20				
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	1.0	0.20				
1.3 吸音				-	-	-	-				
2 温熱環境				1.0	0.35	2.4	1.00		2.1		
2.1 室温制御				1.0	1.00	3.0	0.50				
1	室温			-	-	3.0	0.63				
2	負荷変動・追従制御性			-	-	-	-				
3	外皮性能			1.0	1.00	3.0	0.38				
4	ゾーン別制御性			-	-	-	-				
5	温度・湿度制御			-	-	-	-				
6	個別制御			-	-	-	-				
7	時間外空調に対する配慮			-	-	-	-				
8	監視システム			-	-	-	-				
2.2 湿度制御						-	-			3.0	0.20
2.3 空調方式						-	-			1.0	0.30
3 光・視環境				2.7	0.25	3.4	1.00		3.2		
3.1 屋光利用		共用部：1.5%、住居部：3.2%		3.0	0.30	3.4	0.30				
1	屋光率			3.0	0.60	5.0	0.50				
2	方位別開口			-	-	1.0	0.30				
3	屋光利用設備	3.0	0.40	3.0	0.20						
3.2 グレア対策		共用部：庇、住居部：庇＋カーテン		2.0	0.30	4.0	0.30				
1	照明器具のグレア			-	-	-	-				
2	屋光制御			2.0	1.00	4.0	1.00				
3	映り込み対策			-	-	-	-				
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25				
4 空気質環境				3.6	0.25	3.8	1.00		3.8		
4.1 発生源対策		F☆☆☆☆の積極的な採用		4.0	0.60	4.0	0.63				
1	化学汚染物質			4.0	1.00	4.0	1.00				
2	アスベスト対策			-	-	-	-				
3	ダニ・カビ等			-	-	-	-				
4	レジオネラ対策			-	-	-	-				
4.2 換気		住居部：0.192＞1/6		3.0	0.40	3.6	0.38				
1	換気量			3.0	0.50	3.0	0.33				
2	自然換気性能			-	-	5.0	0.33				
3	取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33				
4	給気計画			-	-	-	-				
4.3 運用管理				-	-	-	-				
1	CO ₂ の監視			-	-	-	-				
2	喫煙の制御			-	-	-	-				
Q2 サービス性能				—	0.30	-	-		2.9		
1 機能性				2.5	0.40	2.6	1.00		2.5		
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60				
1	広さ・収納性			-	-	-	-				
2	高度情報通信設備対応			-	-	3.0	1.00				
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40				
1	広さ感・景観			-	-	3.0	0.50				
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-				
3	内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50				
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-				
1	維持管理に配慮した設計	防汚性、埃の溜まらない設計、共用部床面水使用可能、風除室扉の距離、維持管理が異ならない、防錆		4.0	0.50	-	-				
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-				
3	衛生管理業務			-	-	-	-				
2 耐用性・信頼性				3.2	0.31	-	-		3.2		
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-				
1	耐震性			3.0	0.80	-	-				
2	免震・制振性能			3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.33	-	-						
1	躯体材料の耐用年数	3.0	0.23	-	-						
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	5.0	0.23	-	-						
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	2.0	0.09	-	-						
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.08	-	-						
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	5.0	0.15	-	-						
6	主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.23	-	-						

	2.3 適切な更新				-	-	-	-	
	2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-	
3 対応性・更新性				3.4	0.29	2.9	1.00	2.9	
	3.1 空間のゆとり			-	-	2.8	0.50		
	1	階高のゆとり		-	-	4.0	0.60		
	2	空間の形状・自由さ		-	-	1.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性			3.4	1.00	-	-		
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-		
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-		
	3	電気配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新、修繕できる	5.0	0.11	-	-		
	4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新、修繕できる	5.0	0.11	-	-		
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-		
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	2.2	
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5	
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-		
	3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	-	3.0	
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	2.9	
1 建物の熱負荷抑制				3.0	0.40	-	-	3.0	
2 自然エネルギー利用				2.5	0.20	-	-	2.5	
	2.1 自然エネルギーの直接利用			2.0	0.50	-	-		
	2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-		
	3 設備システムの高効率化		LED照明	3.1	0.40	-	-	3.1	
	集合住宅以外の評価（ERRIによる評価）		#VALUE!	5.0		-	-		
	集合住宅の評価			3.1		-	-		
4 効率的運用				-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング			-	-	-	-		
	4.2 運用管理体制			-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.0	
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4	
	1.1 節水		節水コマ、省水型	4.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-		
	2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63	-	-	3.0	
	2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-		
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		—	3.0	0.20	-	-		
	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		—	1.0	0.20	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		GL工法、軽鉄工事	5.0	0.24	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0	
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-		
	1	消火剤		-	-	-	-		
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-		
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮			省エネ設備の導入	3.2	0.33	-	-	3.2	
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0	
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-		
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-		
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
	3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2	
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
	1	騒音		3.0	1.00	-	-		
	2	振動		-	-	-	-		
	3	悪臭		-	-	-	-		
	3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-		
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-		
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-		
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-		
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン、広告物照明の過半を満足	5.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周囲の景観と調和するように、シンプルかつ落ち着いた外観デザインとした。
ゆとりある間取りで、各戸の快適性を重視した設計とした。

Q1 室内環境

居室の窓をなるべく大きくし、通風・採光の確保に努め、快適な住空間を目標とした。
居室のサッシはペアガラスとし、断熱性の向上を図り、遮音等級T-1以上を採用。
使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止する。

Q2 サービス性能

将来の更新を想定し、全室ビニルクロスを採用。
階高を十分に確保し、設備機器等の更新に備える。

Q3 室外環境（敷地内）

外壁仕上材の彩度を落としたデザインとし、周囲への太陽光の反射等の軽減を図る。

LR1 エネルギー

ベランダ（庇）を広めにとり、日射遮蔽性、断熱性能の向上を図る。

LR2 資源・マテリアル

限りある資源を有効に利用する。
ハロン消火剤を使用しない。

LR3 敷地外環境

道路境界からの離れを大きくとる事で、周囲への圧迫感が軽減されるように配慮した。
ゴミ置場に屋根と扉を設け、悪臭が周囲へ漏れないようにした。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 ノーブル九学通り新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		69.8
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				63.2	0.40	25.28
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.1	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数